

平成26年度 第6回河内長野市文化振興計画推進委員会

【日時】平成27年3月16日（月）午後6時00分～午後8時00分

【場所】市役所5階501会議室

【出席者】

<河内長野市文化振興計画推進委員会委員>

末延 國康・浅尾 広良・荒川 透・今村 尚美・来村 多加史・中道 厚子・長山 公一・
中脇 健児・寶楽 陸寛・水落 学・安福 廸子

<事務局>

（河内長野市教育委員会事務局文化・スポーツ振興課）

大江・森井・上田・東畑・西尾

（ランドブレイン株式会社）

西村、小笹、三浦

【配布資料】

- ・次第
- ・資料1 本市の文化に関する課題に関する意見
- ・資料2 本市の文化に関する課題
- ・資料3 本市における文化振興の方向性
- ・資料4 第5回 河内長野市文化振興計画推進委員会 議事録
- ・別紙 市民アンケート調査票問9 詳細資料

以上

(委員長挨拶)

末延委員長

みなさんこんにちは。ランドブレイン西村さんより資料の説明をお願いします。

(資料 1、2、3 の説明)

ランドブレイン西村

資料に対する意見と、今後方針に基づく施策を考えていくので、ご示唆いただけるとありがたい。

末延委員長

方針として掲げた 3 本の柱の図をホワイトボードに書いている。資料 1、2 についてご意見はないだろうか。今日は資料 3 を中心にフリートークでご意見を頂けたらと思う。

アウトリーチを活かして、市民から人材発掘をするという点がかなり強調されていると思うがいかがか。

中脇委員

特に議論が集中している点は地域での循環である。また、若手育成、担い手育成、つなげるコーディネーターの必要性が議論されてきたが、今日は、ここから議論してはいかがだろうか。

宝楽委員

メディアを効果的に活用することに関して、編集者の経験を持つ長山委員からご意見を頂けないか。

長山委員

河内長野を雑誌に取り上げた際、観光の話ベースとし、キーワードは「奥河内」で押し出した。河内長野市の観光は自然がメインで、市内の街道の話とつながっていない。

メディアに取り上げられることは非常に大切だ。パッケージを作って、ニュース性をアピールしなければ、メディアは取り上げてくれない。事業を行う際に、売りを自分で考えてからメディアに持っていかなければならない。

もう一点、ファンを増やして口コミを増やすという方法がある。一般企業などでも、SNS などを利用してファンを広げることがある。しかし、一般の人に口コミをしてもらうためには、何をすべきかについて考えなければならない。

末延委員長

南海電車が南海ウォークというまちあるきを行っている。観心寺、延命寺などを散策するというイベントである。南海電鉄が行うイベントも仕組みとして活かすことができる。河内長野市に来ていかに感動してもらえるか、観光客にいかに受け入れてもらうかが重要

である。

中道委員

富田林市で歴史ウォークをやってきた。まちの歴史好きの人の案内で遺跡を巡る企画で、30人程集まった。河内長野では歴史の研究会が何十年も続いているそうで、他にない情報の蓄積があるかもしれない。健康ブームもあるので、運動とまちの歴史や蓄積された情報を組み合わせた取り組みができれば面白そうだと思う。

荒川委員

近鉄がまちあるきと文化のセットをよく行っている。例えば、松尾芭蕉の句碑をめぐるツアーというのがあり、参加者は100人近いそうだ。当日簡単な冊子を数百円程度で販売している。それでも100人近くの人が集まってくる。概ね参加者は固定されているようだが、かなりの規模で来ているので需要はあると思う。

安福委員

河内長野では、椋本さんが熱心に活動されている。しかし、椋本さん以外の抜きんてた人がいない。中にはボランティアでウォーキングと食事を行うという話も聞く。南天苑などで行えばいいが、費用がかかるため難しい。

河内長野市といえばなんだろうという質問を、周囲に聞いたところ、天野酒、観心寺、延命寺、つまようじなどが出てきた。

中脇委員

これまでの議論からファンを増やすための口コミ、感動という新しい流れが出てきた。また、市民がナビゲート役になり取り組みを行うことで、ファンを増やすことに繋がる。感動という切り口で、高齢者や教育現場で掘り下げることができないだろうか。

宝楽委員

観光ボランティア倶楽部というものが立ち上がっている。エリア担当長を決めて、役割分担を行っている。地区担当長は入れ替わり制となっているようだ。

森井課長

観光ボランティア倶楽部は駅にある案内所を運営しています。色々な分野で活動して頂いており、ガイドのマニュアルなども作成していただいています。

中脇委員

こういった方々は、どのようなモチベーションで活動しているのか。

森井課長

私は立ち上げに関わりましたが、リタイアされた方が中心になっており、自然が好きで環境を気に入って河内長野に住まわれた方が多いです。そのような方が観光客や市民に、良いものに気づくための機会を作りたいと立ち上げられました。

中脇委員

ボランティアもしくは少額の謝礼で活動していると思うが、継続性、事業化など、どのようにして行われているのか。

森井課長

勉強の発表の場になるということは事実です。人と交流することが学びになり、相手の力になれたという喜びもあると思います。

中脇委員

これまでの議論で連携を支える体制が難しいということが常に課題になっている。観光ボランティアやコーディネーターは高齢者の参加の機会になると思う。

宝楽委員

公民館に歴史の学びの場はあるのか。観光ボランティアの動きと、公民館の動きが別々のように思える。

浅尾委員

公民館活動でも歴史関係は行われている。

大江部長

歴史関係は人気があり、公民館だけではなくくろまる塾、図書館でも関心が高いです。

今村委員

知っている方は知っていて、全校遠足で遺跡や仏閣などのポイントを回る際の説明を自治会の関係者に依頼することがあった。自治会のご紹介で、誰が詳しいとかいう情報が入る。

中脇委員

河内長野市は自治会が活発ということなのか。

今村委員

河内長野市は自治会がまだまだ機能している。特に、小学校ではコミュニティ・スクールに自治会連合会の方に協力していただいている。

宝楽委員

コミュニティ・スクールは、まちづくり協議会とは別なのか。

大江部長

別です。コミュニティ・スクールは、各小学校単位で、地域の小学校に積極的に関わっていただく組織です。

末延委員長

川上小学校は、観心寺を授業で取り上げ、チームに分かれて児童が調べたものを観光客にガイドするという取り組みがある。調べる段階から発表まで行うので教育につながり、

やりがいのあるものになるだろう。児童の力を活かして観光をPRすることも可能ではないだろうか。

今村委員

河内長野市は小学校5年6年と中学校1年でふるさと学が必修である。児童が大人になり、興味を持って次の世代に伝えて繋げてくれることになる。高齢者世代と子ども世代が繋がる仕組みがあればいいのではないか。

中脇委員

ふるさと学で学んだ知識を活かし、こども観光ガイドになるというような試みはあるか。

今村委員

その段階にはまだ至っていない。

末延委員長

観心寺では観光客に、5、6人の児童がグループになり、パネルで説明している。観光ボランティア倶楽部の人と連携してはどうか。

大江部長

こういった取り組みを、ぐるっとまちじゅう博物館という事業で行っています。河内長野市の資源を博物館に見立てているものです。校区によって、観心寺や延命寺などを子どもたちが調べて発表するというところを行っており、小学校とだけでなく、地域の人も関わっていただいています。公民館は現在ぐるっとまちじゅう博物館とは関わりがないです。しかし、公民館として歴史講座やまちを歩きながら、地域を周るという事業を行っています。

来村委員

子どもの教育について河内長野市はとても良く、一番発達していると思う。次いで藤井寺市も活発である。是非、河内長野市民の誇りにしてほしい。ぐるっとまちじゅう博物館は成功事例である。また毎年取り組む地域が変わることで、関わる小学校も変わる。

安福委員

市民が主役の感動の場作りでは、公民館や自治会を中心とするなど絞っていく必要がある。

末延委員長

学校だけでなく、校区の高齢者や観光ガイドなど、様々な主体が繋がることが重要である。また、子どもたちの学習内容も充実し、指導者も楽になるのではないだろうか。

今村委員

特別に取り上げるスポットがない地域もある。例えば、南花台などではどうすべきか。

来村委員

ぐるっとまちじゅう博物館では、なるべくバランスを意識し校区を選定している。しかし、山谷を切り開いたニュータウンは仕方ない部分がある。ボランティアや大学生も一緒に行っており世代を超えた交流がある。

また、観光ボランティアの高齢化というのが全国的な傾向である。案内していると、ガイドの知識が深くなり、一般の市民が入りづらくなってしまうので、若返りを図っていかなければならない。最近は料金を受取って案内する傾向にあり、その責任に耐えうるガイドをしなければならないので質は向上してきた。概ね確立されているので、任せていくのがいいが、問題は新しい人をどう引き込むのかということだ。そういう意味で、子どもがガイドを行うという取り組みは素晴らしい。

浅尾委員

本日、新たに配布されたアンケートの結果でも、10～20代の認識が高いということは、ぐるっとまちじゅう博物館等の効果が出ているのだと感じた。

今村委員

しかし、教育を受けた子どもたちが、市外へ出て行ってしまっている。

安福委員

子ども時代に経験したということが大事だと思う。

来村委員

歴史文化が少ない地域では、ぐるっとまちじゅう博物館の文化版ができないだろうか。

安福委員

南花台には空き地があり、団地再生の取り組みの提案を目にしたが、アイデアでは、ミュージアムなどの建設もあり、心が躍った。小規模な美術館などが河内長野にあってもいいのではないか。

宝楽委員

コミュニティと文化財を学べるセンターということだろうか。

中脇委員

空き家を活かしたまちなかの小さな手づくりミュージアムということはおもしろい。まちなかにアートがあれば、アーティストが出向くアウトリーチにこだわる必要も無いのかもしれない。

末延委員長

子ども美術館を作らないか提案したことがある。子どもに視点をあてたまちづくりということは今後も重要になってくるだろう。今、子どもの作品を目にするのは、学校や公民館の展示しか無い。姉妹都市であるアメリカのカーメル市には子ども美術館がある。

中脇委員

これから人口が減少してくると、必然的に空き家も増えることがわかっている。ミュージアム以外にできることは無いだろうか。高齢者が集まる場でできることなど。

安福委員

提案の中にジムなどもあった。空き家を活かしてできないだろうか。

宝楽委員

空き家を集いの場にするという話はある。河内長野は今後、空き家条例ができるので、空き地が増える可能性がある。

中協委員

連携体制の整備を進めると、高齢者の発表の場である観光ガイドなど、高齢者の参画機会の増加にも繋がる。結果的に多世代交流の場にもなる。交流でファンが増え、口コミが増えるのではないかと思う。

次の話題へ変えて、アウトリーチで市民が担い手にということが挙がっていたが、一流のアーティストがアウトリーチで出向く事業に宝楽委員が関わっているが、その点はどうか。

宝楽委員

一流のアーティストが来ても集客に結びつかないという現状がある。オペラや民族音楽などは見たら「いいと思える」と思っているプロデューサーはたくさんいる。認知を上げるために、アウトリーチという手法をとっている。そのためにコーディネートする仕組みは欲しい。民族音楽の場合、ホームステイをする海外アーティストもいる。国際交流協会と協働し、市民文化と交流している。

中協委員

市民がアウトリーチ活動の担い手になる方向性もありえる。

宝楽委員

文化振興計画の中では、国際交流は関係あるのか。

中協委員

河内長野市では外国人の労働者は増えているのか。製造業が盛んなまちでは、工場などの外国人が増えているようだ。

中協委員

岐阜の可児市文化創造センターなどでは、アートで外国人と異文化交流という例も聞くが、河内長野ではまだそこまでは至っていないのか。

宝楽委員

文化振興計画に多文化共生は入れなくてもいいのか。

今村委員

学校によっては読み書きが難しい子どものために外国人の方にボランティアで来てもらうことがある。

末延委員長

ラブリーホールで大阪芸術大学のコンサートがあり、市内中学校の音楽クラブを招待した。参加者の感想を聞くと好評であったので、生で聞くということを身近なところから実現していくことが重要である。

宝楽委員

南花台中学校は、合唱コンクールで優勝していたのではないか。文化財が無い地域でも、アートの可能性はあるのではないだろうか。

今村委員

私が担当した当時、部員が75人ほどいたが、今はクラス数も少なく、子どもも集めにくい現状がある。

水落委員

アウトリーチはホールに行けない人の為にアーティストから行こうというのが本来の目的なので、プロかどうかという線引きせずに捉えてはどうか。

多文化共生まで入れるかどうかということだが、時代を先読みして入れるのはどうか。例えば、大阪市内の地下鉄では、何年か前からハングル語や中国語の表記がある。今になって価値が生まれている。

宝楽委員

南天苑の外国人客が平日では7、8割と聞いている。口コミサイトでは、ランキング10位以内に入っているらしい。関空からも利便性が良いようだ。

今村委員

南天苑は、積極的に海外に発信している。

来村委員

大阪には、たくさんの外国人が来ている。ただ、流行であり、これが今後の観光施策の本流になるとは思えない。

今村委員

お昼時には必ず外国人の方が電車に乗っている。空港から難波の間で、高野山などに行く人も多い。何とか引き込めないかと思っている。

末延委員長

京阪電車中之島駅に人を呼びこむ仕組みとして、「キテ・ミテ中之島」という取り組みをしている。駅コンコースで幼稚園の子どもや大学生、プロの方などの作品を掲示している。それだけで多くの人が見に来る。アートウォークも行うなど、ワークショップを組み合わせ

せている。魅力をはっきりさせるのも大切である。

来村委員

ぐるっとまちじゅう美術館、音楽堂という派生はどうか。最初から新しいことをするのはハードルが高いので、ぐるっとまちじゅう博物館の中で音楽や美術の要素を入れていき、盛り上がればスピアウトすることでいいのではないかと。実現可能などころから動く。

図の描き方を変更してはどうか。資料の図の矢印が1方向になっているが、アウトリーチは、市民に向けて押し出すイメージで、ラブリーホールは引き込む場なので双方向の矢印が描ける。発信は両方のつなぎ役になる。押し出す方向性は、市民への拡大であり、引き込む方はアートを深化するということと言える。

宝楽委員

ぐるっとまちじゅう博物館に公民館は入っているのか。

来村委員

入れていくといい。会場に公民館を利用している場合もある。

中脇委員

公民館、学校、地域も資源と言える。連携体制という点で、育成というアーティストを育てるという意味があったが、今後は学んだことを市民が発信するということも含まれるかもしれない。

末延委員長

ラブリーホールでは、「自然を活かした音」というテーマで、木を活かしたアートを作っている。市民アンケートの中では、公民館の利用者が固定化しているという意見もあり、ラブリーホールと公民館の関係を築いていくなどの変化が必要である。

中道委員

ぐるっとまちじゅう博物館のイメージがないのだが、どのようなものだろうか。

大江部長

11月に、3~4日で期間と地域を定め、普段公開されないお寺を公開したり、解説のパネルを設置し、子どもたちが案内を行ったりしています。各ポイントで催し物もしています。寺ヶ池であれば、小山田地区や、観心寺・延命寺のあたりを川上地区一体で行ったりしています。年によって地域を変えて行っています。

中脇委員

図のような循環を目指すとき、1つのキーワードがあった方がいい。今は「循環」がそれにあたると思うが、具体的なイメージが掴みにくい。例えば、「地域や市民の力を交流し、引き出し、温める（エンパワメントする）文化施策」というのはどうか。

中脇委員

今日新しく出た意見は、人材育成で、学んだ人が知るから参加へのきっかけとしての学びの場が必要なことが挙げられた。また、学びを通して郷土愛の醸成、学んだ人が情報を発信し、ファンを作ること、社会課題に寄与することにつながるということが挙げられた。

中道委員

ふるさと学はすばらしいと思うが、その分野について学びたいとき誰に頼んでいいのか分からないという点が問題である。一つの施設で面的に輝くことも大事だが、学ぶきっかけを得る仕掛けが必要である。

荒川委員

誰がどのようなことに取り組んでいるのかをまとめることができればいいのではないかと。

中道委員

事例として、堺で「子ども堺学」がある。大人が応援団を結成し、熱い想いを子どもが引き継いでいく繋がりができており、流れを生んでいる。

荒川委員

最初からそれは大変なので、取り組みをまず集めてきて、学校側が探すことができるリスト、人材データベース、みたいなものがあればいいと思う。

来村委員

ぐるっとまちじゅう博物館に落としこむという案があったが、それは初期段階の話で、めざすべき理想は掲げておかなければならない。構造的に実行できるまちづくりが必要だ。

宝楽委員

その人の魅力を可視化するプロデュースする力が大切である。例えばラブリーホールはアーティストの魅力は知っているが、それを地域の人につなげる力はあまりない。

その力をつけるという事は難しい。今は個人同士のつながりでそれが生まれている状態である。コーディネートする仕組みを管理する場や会などが必要なのではないかと。

末延委員長

「やりたい」「知りたい」というときに情報を閲覧できる窓口を市民に発信することが大事である。可視化して、印刷し広報紙に入れるなどするのはどうか。一覧表があるべきだと思う。

中道委員

文化のコンシェルジュですね。

来村委員

一番手間のかからないことは、河内長野市のHPの一面に、クラウドのデータベースを作ることだろう。Facebookと同じような雰囲気かどうか。

末延委員長

年配者になるとインターネットだけでは難しい。印刷物などとの併用が大事である。

宝楽委員

情報の発信はツールだと思うが、まとめたものを作るべきだという施策や仕組みが無い。

中脇委員

施設が担うのは難しい。学びや交流の発信は民間と文化施設が一緒に行うと、お互いの得意分野が活かせるのではないかと思う。それぞれのミッションがあるといいのではないか。来年度はどのように進めていくのか。

ランドブレイン西村

方針に関しても掘り下げて頂いた。来村先生に出していただいた図も含めて、将来像に近づいたと思うので、再度方針の形を練り直せたらと思う。具体施策、現状行われていることの次のステップというものもお話頂いたので、次回の委員会では次の施策として何をしていくのかということもお出ししたい。その中で、仕組みの話も出てくると思う。

仕組みの話と関連し、体制の話が大切だと思う。来年度は前半で将来イメージと具体施策について議論お願いし、後半で実現するための体制について話したいと思う。施策と体制は、何度か振り返りながら進むと思う。来々年度からすぐに動くことができるよう、河内長野の今の現場に沿ったご意見を頂けるとありがたい。

末延委員長

色々ご意見ありがとうございました。循環というキーワードで今後も進めていきたいと思う。

東畑主査

ご意見ありがとうございました。次回の会議を4月下旬から5月の中旬で予定しています。委員の皆様のご調整をさせて頂きたいと思います。

以上